

◆今期間のポイント

<主要じょう乱の概要>

- 台風第9号については最新の台風予報を参照。
- 8日から9日にかけて、高気圧が千島近海にあって、次第に不明瞭となる。また、別の高気圧が日本のはるか東を東へ移動する。
- 9日から10日にかけて、西日本は気圧の尾根となる。一方、沿海州から北日本に前線がのびる。
- 11日から12日にかけて、高気圧の西日本への張り出しは次第に弱まり、日本付近は気圧の谷となる。

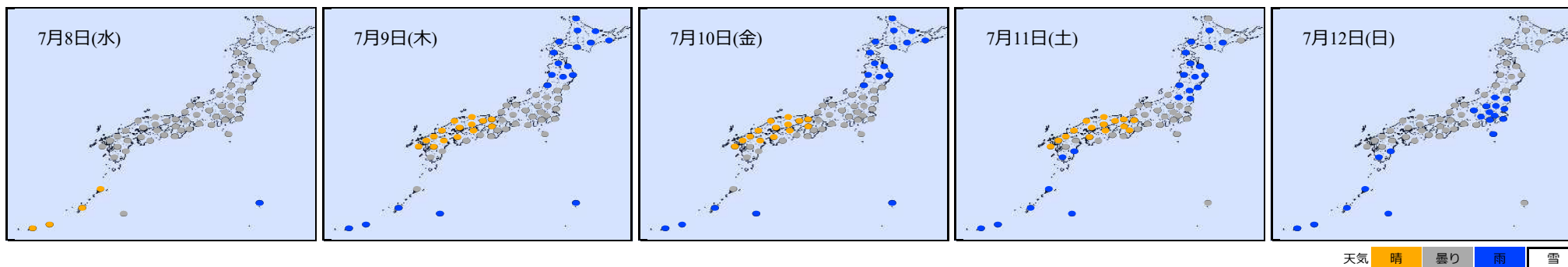
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 9日から10日頃にかけて、沖縄・奄美では、台風第9号の影響で大荒れや大しけとなる所があり、台風の進路等によっては警報級の大雨となるおそれがある。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

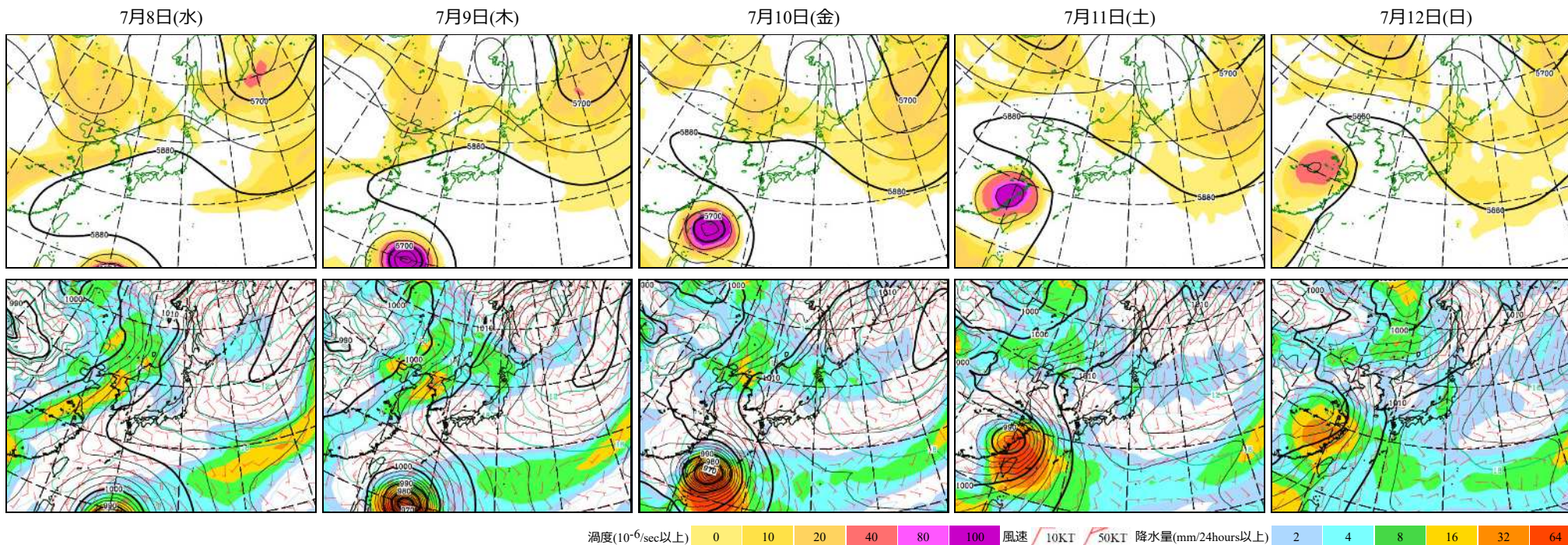
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

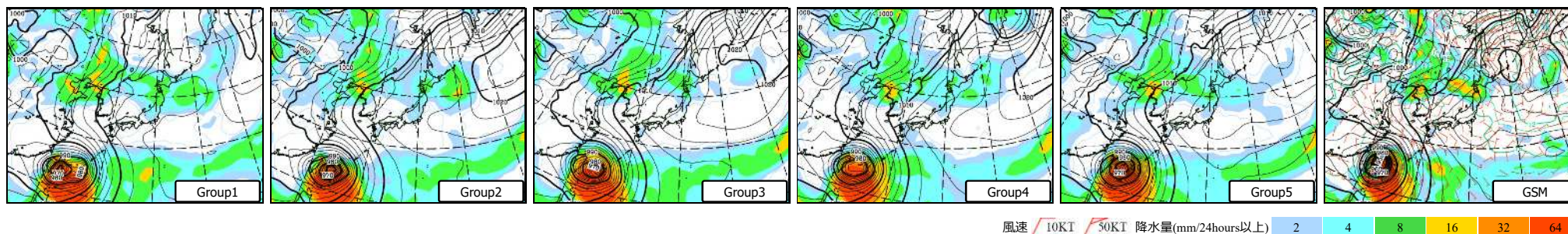


- 北日本は、曇りや雨の降る所が多い。
- 東日本は、雲が広がりやすく、12日は雨の降る所がある。
- 西日本は、8日と12日は雲が広がりやすい。9日から11日にかけては晴れる所が多い。
- 沖縄・奄美は、8日は晴れる所が多い。9日から12日にかけては曇りや雨の降る所が多い。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆7月10日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料 (ENS) は、大きな初期値変わりはない。9日から10日にかけて、アムール川下流ではリッジが強まり、日本の東ではトラフがやや深くなった。
- モデル間の差は比較的小さい。11日以降は、バイカル湖付近の寒冷渦またはトラフについて、深さや位置の違いがあり、ECMがやや東寄りで深い。
- 10日は、千島付近の高気圧について、張り出し方や気圧の尾根の位置にメンバー間の違いがみられる。これにより、北日本において降水の広がりには違いはあるものの、沿海州から津軽海峡付近に前線がのびるメンバが多く、GSMも同様の予想となっている。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。9日から10日にかけての北日本の降水はGSMも参考にする。